

# 月刊 ふし



6月号

# 《今月の表紙》

中学3年 Sさん

## 今号の内容

### 【特集】

美術部「ウイルスに負けるなキャンペーン」

美術「中学 スケッチ」

美術「中3 ピクトグラム」

### 【新連載】

67 回生 飯田花織「関西通信」

「美術部 ウイルスに負けるな

キャンペーン」

クラスルームを利用して、ひっそりと活動を続けていた美術部。

美術やデザインの力でできることを考えようと、作品制作を呼びかけたところ、個性豊かなものが集まりました。疫病平癒の御利益がある妖怪アマビエのイラストレーションと、メッセージポスターをご覧ください。



Aさんの作品



Sさんの作品



Nさんの作品

# 手洗い・うがいをしよう!



Iさんの作品



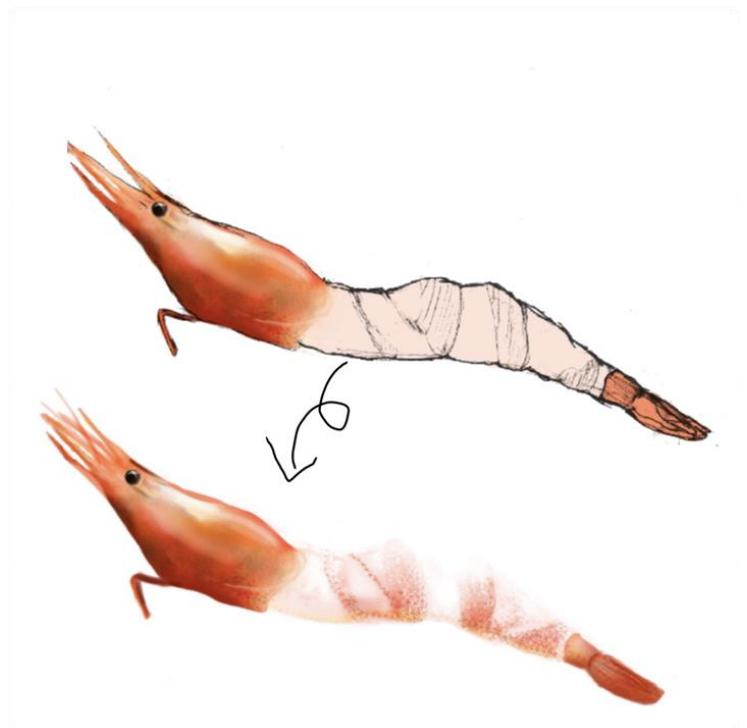
上：Hさんの作品  
下：Tさんの作品



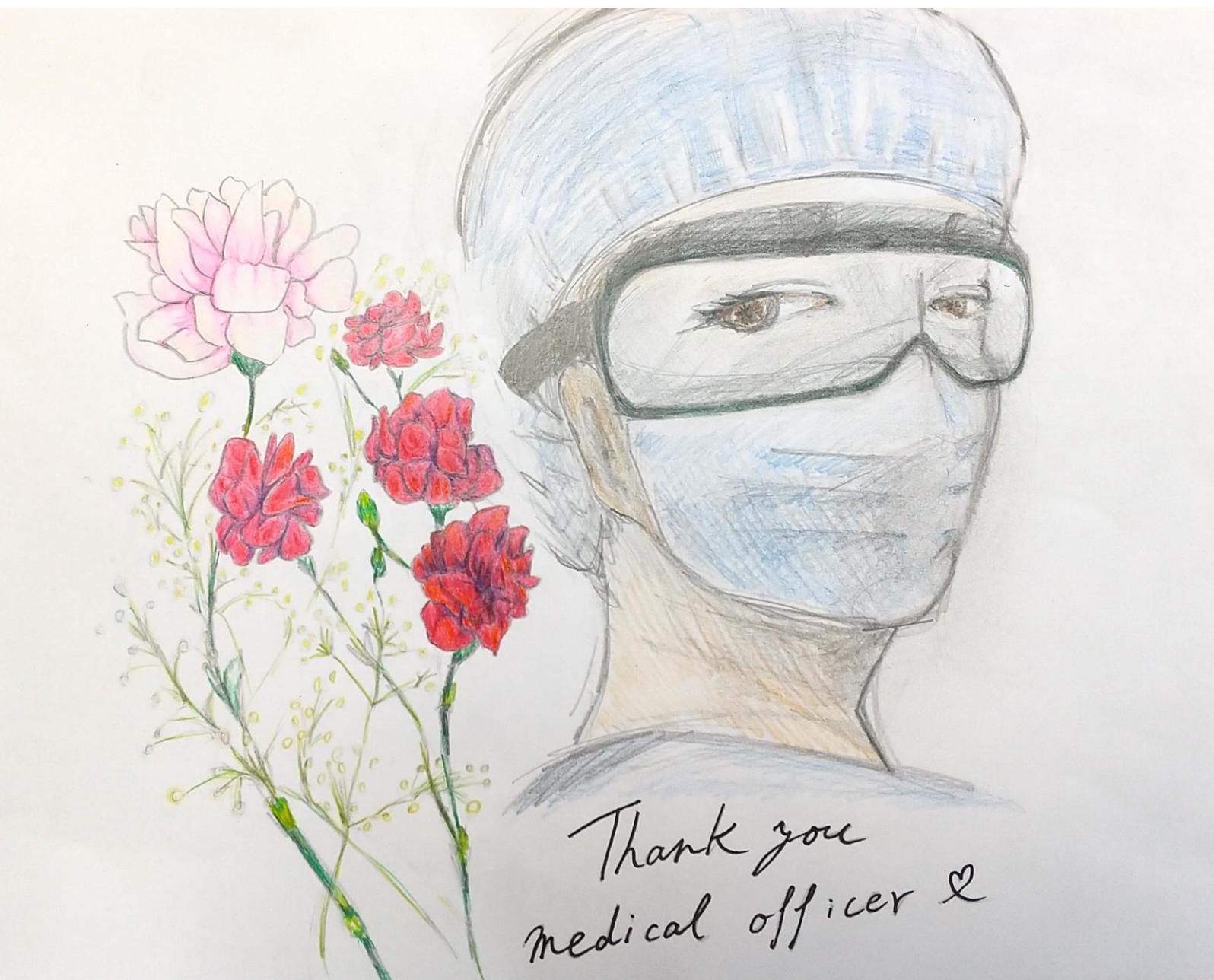
〇さんの作品



上：Hさんの作品  
下：Sさんの作品



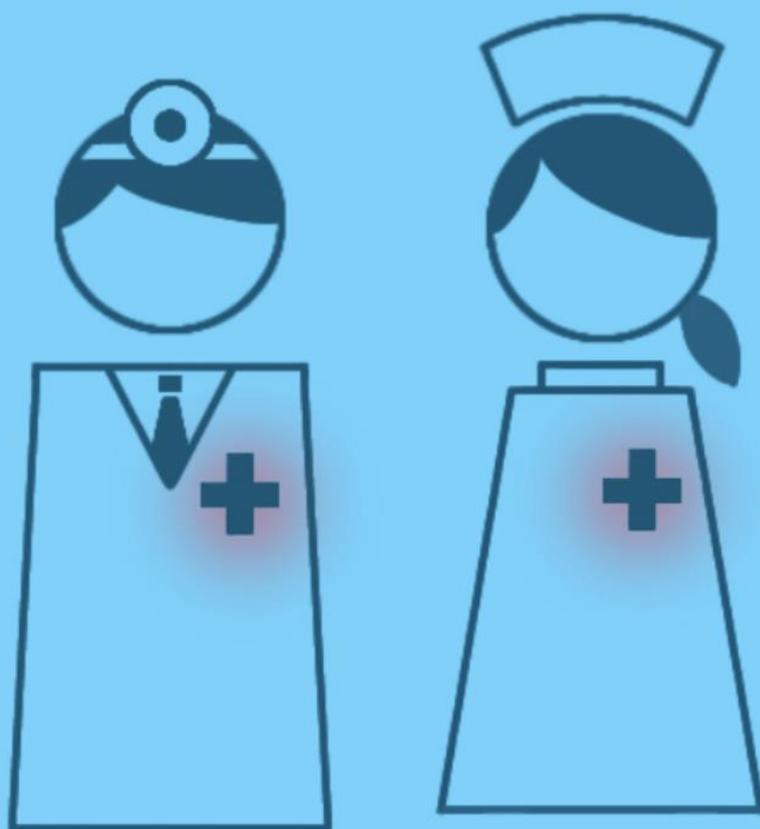
Kさんの作品  
(写真の加工ではなく  
描写しています！)



Nさんの作品

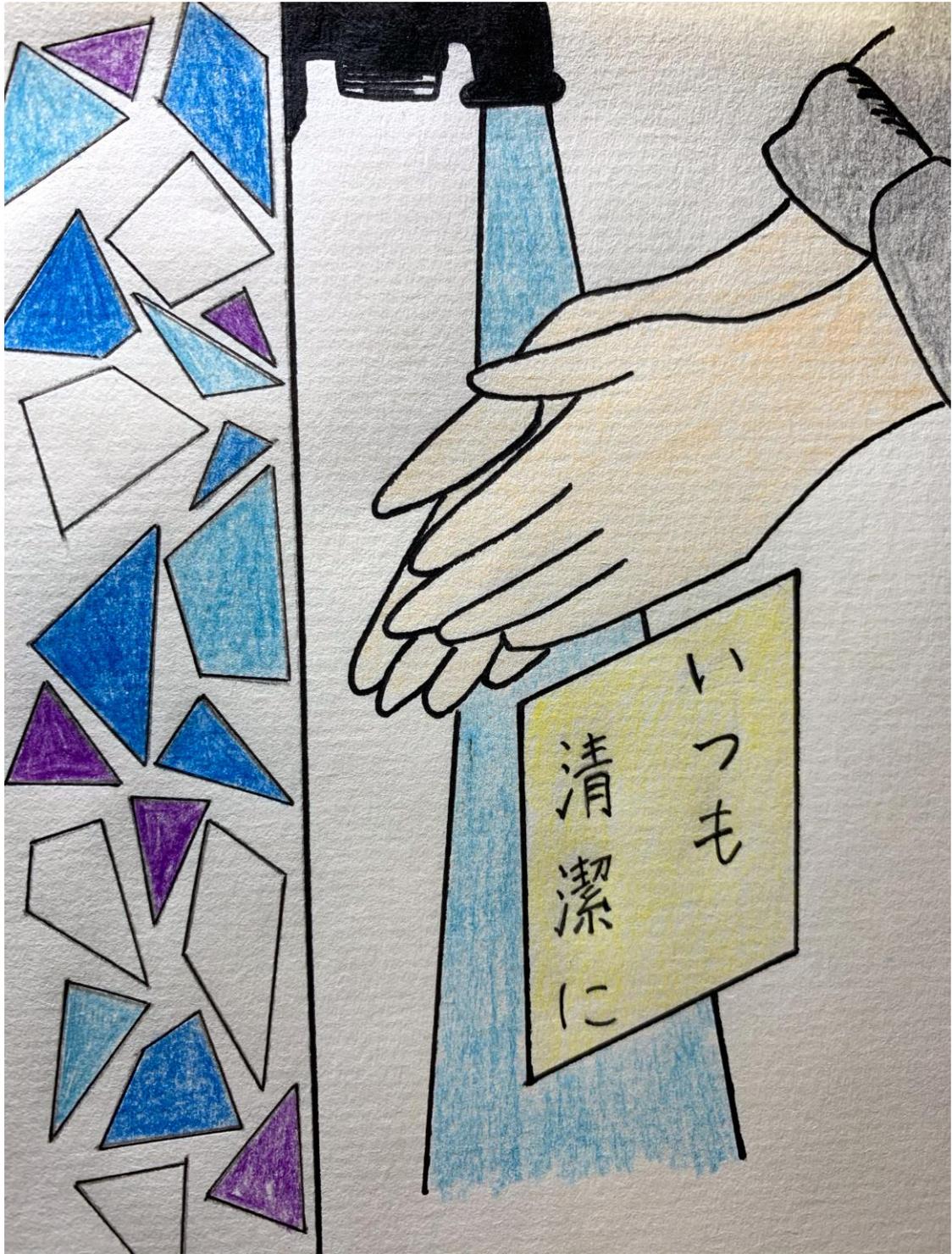
医療従事者の皆様に

感謝を



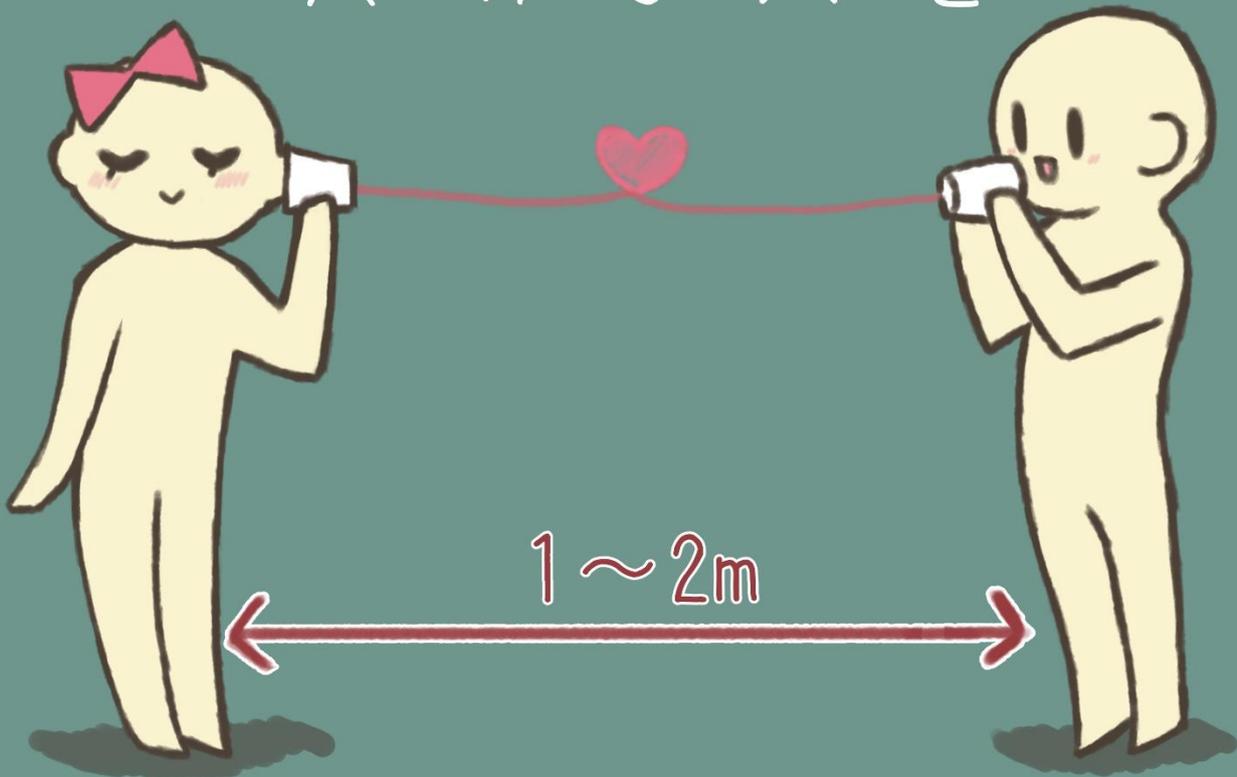
今も最前線で戦っている。

Sさんの作品



Hさんの作品

大切な人を



守る距離を!!



Tさんの作品

## 「中学 スケッチ」

休校から始まった4月。美術の授業では、「身の回りの心惹かれたものをスケッチせよ」の課題が出ました。

中学生の心を惹きつけたのはさまざまなもののように……。今回はウェブ授業を通して、インターネットで画像を提出してくれた生徒の作品を紹介します。撮影の仕方によって少々見にくいものもありますが、ご了承ください。



中2 Yさんの作品



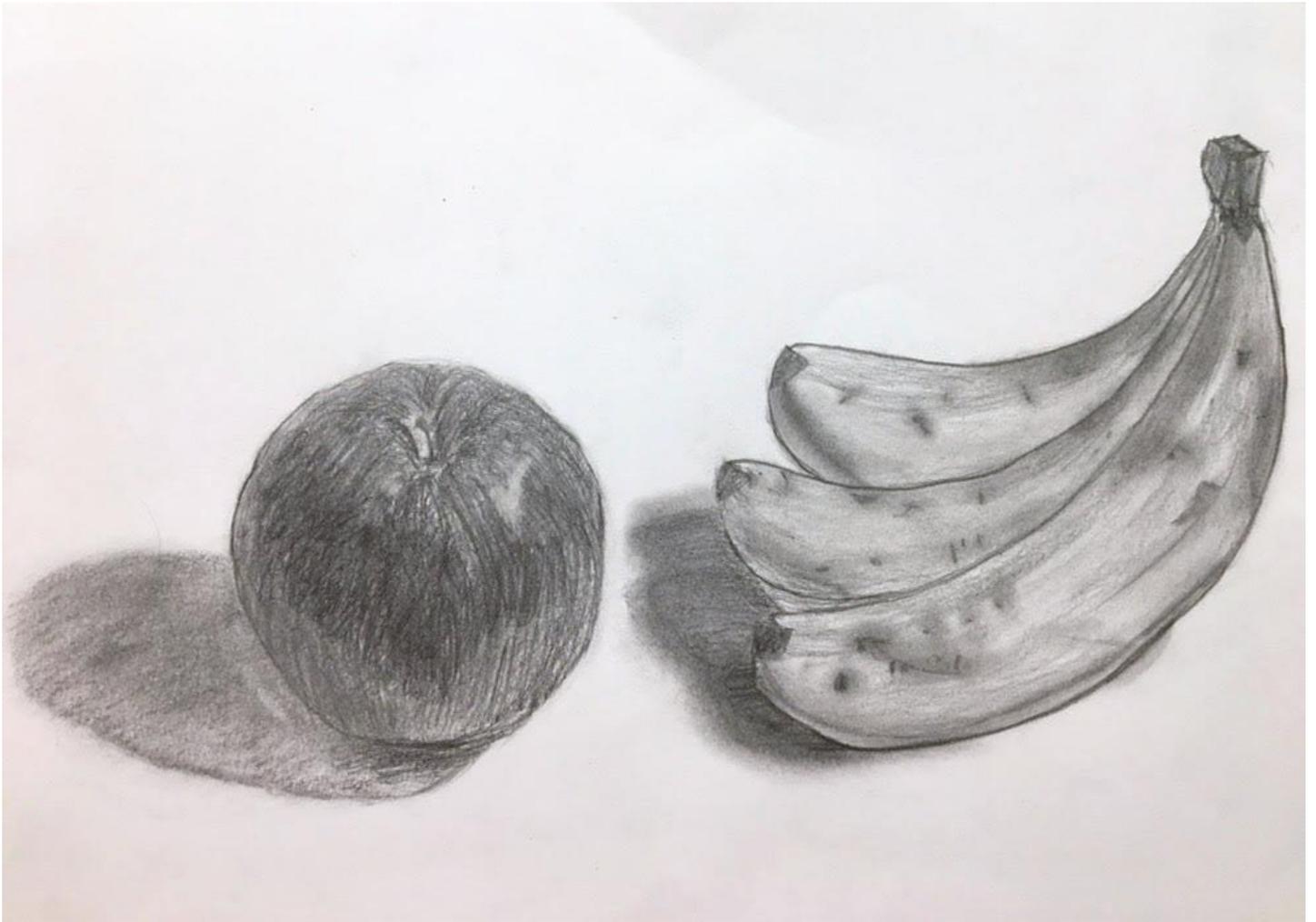
中2 Sさんの作品



中1 Sさんの作品



中2 Oさんの作品



中3 Yさんの作品



中2 Uさんの作品



中2 Tさんの作品



中1 Sさんの作品



中3 Sさんの作品



中3 Mさんの作品

## 「中3 ピクトグラム」

中学3年生は、美術のウェブ授業で、「オリジナルのピクトグラムを考える」という課題に取り組みました。ピクトグラムとは、何らかの情報や注意などを単純化して伝える絵（サイン）のことです。

提出作品の約半数が新型コロナウイルス感染防止に関わるものでした。生徒たちのメッセージは伝わるでしょうか。

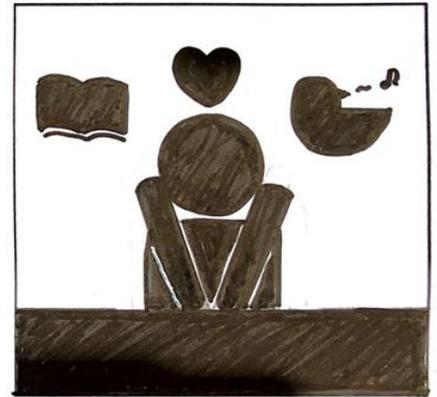
テーマ Stay Home



タイトル  
規則正しい生活を



タイトル  
栄養バランスに注意



タイトル  
リラックスは大切

今回初めて長期間外出自粛生活を過ごしたことで学んだ大切なことを3つのピクトグラムにしました。  
特にインターネット上やニュースの一部でこれと一緒に取り上げれば、生活リズムや、精神的余裕の重要性が、より伝わりやすくなると思います。  
極力細かな部分は描かないようにして、一目ですぐに分かる絵になるように気をつけました。

Uさんの作品

テーマ:

3つの密を避ける



タイトル

密集するのは避けましょう



タイトル

密閉した所にいるのは避けましょう



タイトル

密接して人と関わるのは避けましょう

最近、コロナウイルス感染対策として「密を避ける」というものをよく聞くので、ピクトグラムにしてみました。

あまりシンプルなものに出来た感じはしませんが、なるべく見ただけで分かりやすい物にするよう努力しました。

「密集」や「密接」は必然的に2人以上になるので、人だけで群の中がかなり埋まってしまう、他に色々描いた時見づらくならないようにするのが考えていて大変でした。

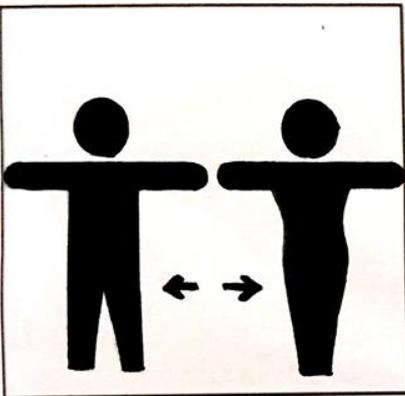
使うとすれば、ニュース番組でコロナ関連の報道を伝える際に一度映したり、営業しているお店のドアに貼ったりと言う風だと思います。

×「密接」などの言葉の意味が分からない小さな子どもであれば、耳で聞くより絵として目で見ただけの方が分かりやすいので、その点においては便利だと思います。

Nさんの作品

テーマ

新型コロナウイルス感染防止



タイトル

Social Distance ~社会的距離拡大戦略~



タイトル

マスクを着けよう



タイトル

おしゃべりはリモートで

左のビクトは、コロナウイルスの感染防止で重要である「社会的距離」を表しています。両手を広げているので、右の女性がスカートをはいていないところを工夫して描きました。スカートではないのは、スカートが苦手の女性も多いためです。真ん中のビクトは、マスクを着けることの重要性を伝えたいという思いで作りました。マスクを着ける時、鼻の形にフィットするように折り目を付けているのがポイントです。右のビクトは、外でマスクを着用せずに人と至近距離で話している人によく見かけて、家で我慢して欲しいと思っていましたので作りました。口からはウイルスが飛沫しています。

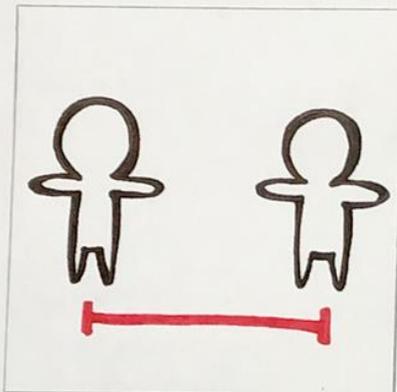
Kさんの作品

テーマ コロナウイルス感染防止



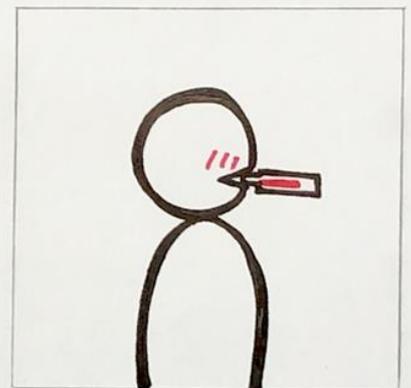
せきエチケットをする

。人につはをにかけてはいけないことを表現した。



人と距離を置く

。人と人の距離をはなし、わかりやすいように距離を示めすしるしをかいた。

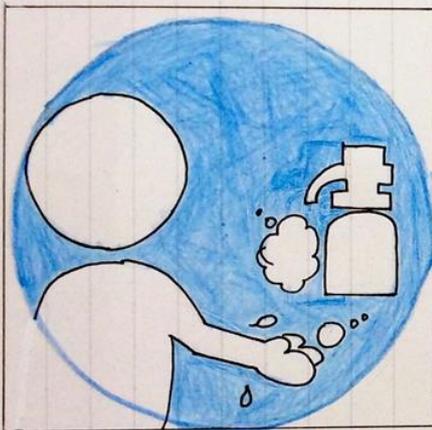


こまめに検温する

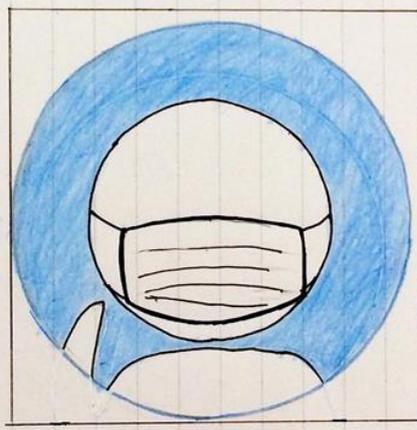
。脇より口にくわえた方が体温計だと認識しやすいと思った。

Sさんの作品

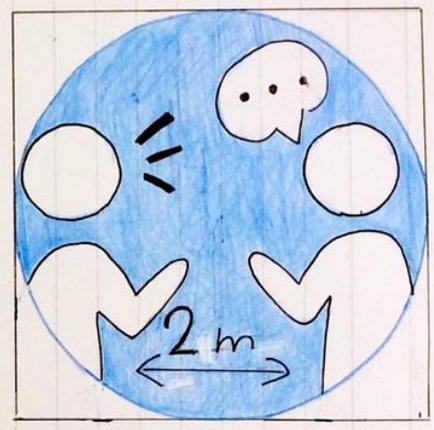
テーマ 新型コロナウイルス 対策



タイトル 手を洗いましょう



マスクをしましょう

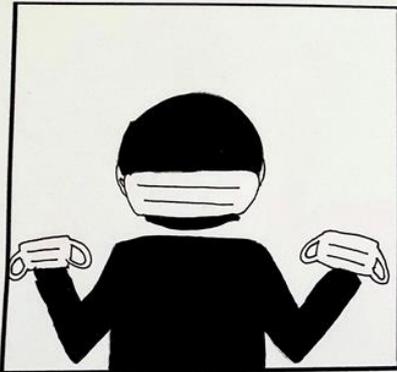


会話するときは2m以上離れましょう

新型コロナウイルス対策の呼びかけとして こういうピクトグラムがスーパーや駅などにはられれば  
実践してくれる人が増えるのではないかと思います。このようなピクトグラムにしました。感染予防にこの3つ  
の事はとても大切なと思います。マスクのふちを少し太くしてみたり手を洗うときにせっけんを使って  
ほしいと思います。せっけんをかいたりしました。

Tさんの作品

テーマ  
コロナウィルス感染防止



タイトル  
マスクをしましょう



タイトル  
外出をひかえましょう



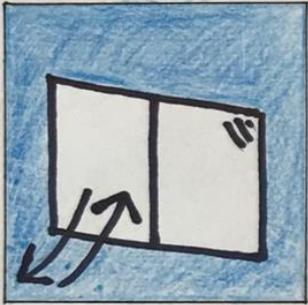
タイトル  
手洗いうがいをしましょう。

コロナウィルスの感染防止のマークを白黒でシリアルにあらわしました。

Sさんの作品

テーマ

コロナウイルス感染防止



タイトル 換気



タイトル テーブル

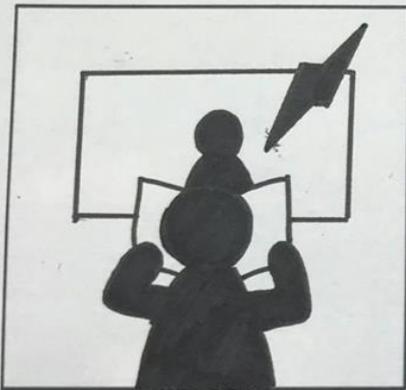


タイトル 体温測定

Nさんの作品

テーマ

勉強のヒント



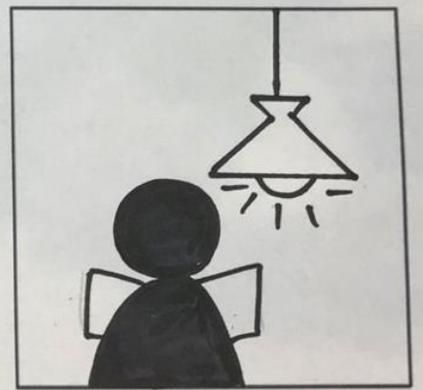
タイトル

勉強のヒント



タイトル

勉強のヒント



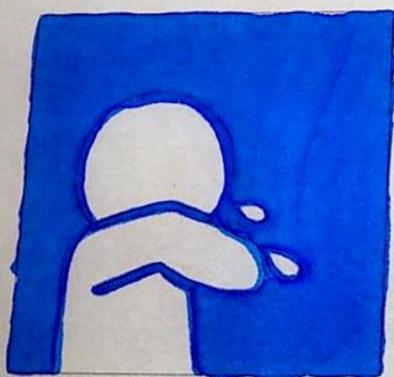
タイトル

勉強のヒント

Sさんの作品

テーマ

新型コロナウイルス等をふせぐためのピクトグラム



咳・くしゃみをする時は口をおさえる。



ハンカチ・ティッシュを持ちあるく。



よく手を洗う。

Sさんの作品

## 「関西通信」

歴史が好きで、同志社大学文学部文化史学科に進学した67回生の飯田花織さん。この春からは大阪大学の大学院に進み、文学研究科で文化表現論を専攻しています。

北海道とも関東圏とも違う魅力があふれる関西での学生生活の様子を、短期連載でお送りします。まずは同志社大学の思い出から。どうぞお楽しみください。

みなさん初めまして。67期卒業生の飯田花織です。私は現在大阪大学の文学研究科で日本画の研究をしています。本当は大学院での研究についてお伝えできたらと思っていたのですが、オンライン授業が続く今の状況では話のネタもありませんので、しばらくは同志社大学に通っていた頃の思い出を振り返りたいと思います。

拙い文章ですが、進路に悩む在校生のみなさんに、大学生活のイメージを掴む参考にしていただければ幸いです。

同志社大学の思い出  
～春夏編～

私は美術史の勉強と趣味を兼ねて、お寺や美術館によく行きます（美術史とは、例えば仏像や絵画などの美術作品を観察して、この作品は誰が、いつ、なぜ作ったのかといった問題を追究する学問です）。「月刊ふじ」の連載なので、興福寺の藤の花の写真をお見せしたいと思います。関西は札幌よりも早く、4月末には藤が咲いていました。



入学してすぐの時期に相国寺で撮った写真です。教科書に載っていたお寺が大学の隣にあるのが嬉しくて、散歩に行きました。私は元々日本史が好きで日本文化史学科を選んだのですが、だんだん絵画のような視覚情報から歴史を読み解くことに興味が湧いてきたので、3年生に進級する時に日本美術史を専門とすることに決めました。



所属する美術史研究会の見学会で訪れた石山寺。大学では授業外でも、有志が集まって興味のある分野について勉強会などを催すことが多くあります。この日は院生、学部生が集まって33年に1度公開される秘仏を見に行きました。貴重な史跡や美術作品を実見できる機会に恵まれていることは、関西で歴史を学ぶ学生の特権とも言えると思います。



今出川キャンパスのシンボルでもあり、重要文化財にも指定されているクラーク記念館。壁面には“THE STUDY OF THE WORD OF GOD WAS DEAR TO HIM”（HIM とはこの建物の建設費を寄付したクラーク夫妻の息子のことです）と刻まれています。私は藤の宗教の授業で聖書の解釈に興味を持ちはじめ、同志社の聖書学の講義も受講していました。聖書のエピソードを知ると、西洋の美術作品を見るとき楽しみの幅が広がります。



夏休みに奈良県のお寺で泊まり込みの学芸員実習がありました。掛け軸や工芸品などの扱いを学ぶことができ、大変有意義な時間でした。猛暑の中お寺の倉から様々な文化財を運び出すのはかなりの重労働でしたが、休憩時間にスイカを食べて畳の上で寝転がるのは北海道民憧れの日本の夏、という感じで楽しかったです。

大学にいる時は写真をあまり撮らないので、お寺の話ばかりになってしまいました……。次回は秋冬編と題して大学生活を振り返りたいと思います。

